

英語科

学年	学習状況と課題分析	具体的な改善策
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、小学校の学びの延長戦として「聞く」「話す」といった音声中心の指導を行っている。簡単な英語の指示や英語で話された内容を理解することが少しずつできるようになっている様子が見られる。一方で、夏休み明けのスピーキングコンテストや英文テストなどの結果から、発音がわかっていてもそれを文字として正確に表現しきれていない生徒が多数いることがわかった。 ・基礎的な知識が定着していない生徒が各クラスに一定数存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音声中心の指導を引き続き実施し、それらを書けるようにする指導に力を入れていく。具体的に、ワークノートなどを活用して基本文や重要表現、英単語を練習させ、単元末に小テストを実施するなどして定着を図る。 ・全員の定着を目指し、全員参加の授業を展開するとともに基礎的・基本的な知識や技能が定着していない生徒に対して机間指導、放課後質問教室などを通して個別指導し、身に付けさせる。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・文法が難しくなり、苦手意識をもち始める生徒が増えてきている。 ・ゲーム活動やアクティビティの中では意欲的に取り組む生徒が多い。 ・基礎的な知識が定着していない生徒がいる。 ・去年の定期考査から、表現力（書く力）が課題である。 ・提出物は9割の生徒が期限内に出せるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム活動を取り入れて、達成感をもたせ、学習意欲につなげていきたい。 ・定期的に小テストを実施し、繰り返し文法事項や単語を取り上げる。 ・ディクテーションなどの活動の中で、反復練習させるようにしたい。 ・去年から取り組んでいるので、少しずつ成果が出てきているように感じるが、正しい文法を使っていないため、生徒が使いそうな文を提示するなどして、より自然な会話を目指したい。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで積極的に発言しようとする生徒は増えつつある。 ・「話すこと」への課題に対して苦手とする生徒もいる。 ・「書くこと」に関して、自分の興味や関心のあるまとまりのある英文を書く課題を苦手とする生徒もいる。 ・宿題、提出物に対する取り組みはよくできる。 ・授業へ取り組む意欲の高い生徒は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間違いを恐れず、自ら進んでコミュニケーションをとることができる授業の雰囲気をつくる。教師の発問に対し、生徒の発言を聞いて、紹介していき、生徒の「できる」という体験を積み重ねていく。 ・「話すこと」への指導に関して、場面に応じて適切なやり取りができるように、日頃から帯活動やペアワークなど話す練習を組み込んでいく。 ・場面状況に沿ったコミュニケーション活動ができるように、気持ちを考えた「読むこと」への活動を行い、自身の考えに立った英文を書く「書くこと」への活動を行うなど自ら考えて行う学習に取り組んでいく。